

新宮山彦ぐるーぷ第1945回

電源開発(株)橋本流通事業所への表敬訪問と

平成29年度世界遺産「吉野・大峯」地域連絡協議会参加

電源開発(株)橋本流通事業所への表敬訪問報告

◇訪問者；川島 功、濱野兼吉、梶野照雄。 3名。

◇日時；平成29年09月13日(水) 10:05～10:55

◇面談者；仮谷忠史サブリーダー、松井祐也。

◇面談内容

「くい丸」並びに年2回(春・秋)の定期寄贈品荷上げのお礼及びモノレールをNo21 鉄塔まで延長する旨の説明のため表敬訪問。所長は、所用のため右記2名と面談。尚、沖崎氏は急遽都合が悪くなり、梶野氏が参加して下さった。

①モノレール延長敷設には、使用させて頂く事もあり了承する。モレール敷設に伴う規制は、高圧電線からの高さ制限(離れているか)以外は支障にはならないが、敷設のルート図面等は事前に提出して頂き、支障ない事を確認したい。

②来年秋には、補給路登山口沿いのNo19～No22 鉄塔間(場合によってはNo25 鉄塔迄)の高圧電線替えの本格的な保守作業を実施する。

この保守作業に伴う事前準備作業(自治体等への周知、許可等)をしていて、来春から現地で本格的な準備作業を実施する。

平成29年度 世界遺産「吉野・大峯」地域連絡協議会参加報告

◇参加者；川島 功、濱野兼吉、梶野照雄。

◇日時；平成29年09月13日(水) 13:30～16:00

◇場所；金峯山寺・聚法殿

◇議 事

一、開会挨拶

総本山金峯山寺；五條良知管領
地域振興部文化資源活用課；谷垣裕子課長

二、講演「文化的景観としての森林の維持について」

速水林業 速水 亨代表

- ・速水林業は、森林経営の機械化を行い、1070ha の森林を環境管理に基づいて経営を実行し、日本で初めて世界的な環境管理林業の認証であるFSC認証(森林管理協議会)を取得。
- ・伊勢志摩G8サミットの家具等調度品のコーディネートを行う。毎年開催している「森林塾」に先般、安倍首相の昭恵夫人がSPを伴い参加され、熱心に聴講して頂いたとのこと。
- ・日本人一般は、外から見た山の緑に満足し、欧州では森の中の変化に敏感である。
- ・人工林は、管理されてはじめて文化的景観になる。道の周辺を無理に自然林に戻すことは文化的景観を否定。人工林の景観は、森林を管理する人の気持ちが見れる。
- ・人々の労働と心が作る景観が「情景」である。地域の人々が美しい「情景」を作ることが古道を輝かすことになる。
- 1 古道周辺は、世界でも際だった人工林の歴史を持つ。古道を維持していたのは林業活動であった。日本イコモス国内委員会の西村幸夫委員長は「森林の広がりや保全が重視された」と述べている。
- ・文化的景観は、林業活動が続いていかなければ、この地域の文化的景観としての森林管理は失われる。多くの人々が森林に足を運び、その変化を感じ取り積極的に発言して欲しい。
- ・持続的な森林管理とは、①社会的配慮が行われている。②経済的な継続性。③生物生態的な環境保全。これらが相互に関連し森林管理が適切に行われている場合に、持続的な森林管理と呼ぶ。
- ・杉1mの立木価格で雇用できる人数は、S54・264人、H24・020人年であり、変化しなければ生き残れない。
- ・森林管理は、光の管理で光を常に入れる間伐をする。

- ・速水林業の具体的な管理は、①林冠の開放度を20%以上。
- ②地表植生・林内広葉樹の維持に配慮。③多様な林況をモザイク状に配置。④溪流・河川を保護する樹木帯を育て残す。⑤倒木・枯木・洞木を計画的に残す。植生が豊かになれば他生物も多様になり水も綺麗になる。

・降った雨の水の行方は、蒸発と蒸散で50%が空中へ、残りは地表水と地下水になる。

・樹木の根茎はせいぜい1.5mが最深。1.5m以上の深さの崩壊は森林に関係ない。

・高齢の人工林は、しっかり間伐し広葉樹を繁茂させる。

・千年〜1万年の命を持つ樹木の一瞬の間間を使って林業が営まれている。経営の合理化や収益の増大は必須の事である。命ある樹木に対する畏敬の念を持って接する事を忘れない。

・300年後、400年後の森を目指して、伐採時一割残す。

・時代にあった新しい森作りには、①安全を確保した森林。②生物多様性の高い森林。③経済性を高める森林。④歩く人々に忘れない感動を与える森林。⑤育てた人の顔が見えるような森林。⑥多くの人々がそれぞれ関わられる森林。が必要である。

(詳細資料2参照)

三、議事事項

(1) 出席者自己紹介 (資料3の参加者名簿参照)

(2) 保全・整備・活用等に関する情報交換

①大峯奥駈道・大日岳鎖場に係る看板の設置について

金峰山寺・小仲坊・吉野自然保護官事務所・県・東部振興課・県文化資源活用課・十津川村教育委員会・下北山村地域創生推進室から計12名が立会い設置した(資料3.1)。

②楊子ノ宿付近のトラバース道の歩行危険箇所については、登山者の判断に委ねる提起を報告した。(資料3.2参照)。

③ナラ枯れの被害について

奈良森林管理事務所から報告(資料3.3参照)。

ナラ類のシイ・カシ類の樹木が枯死する「ナラ枯れ」被害が拡大し問題になっており、奈良県内で顕著になっている。

この被害発生メカニズムは、カシノナガキイムシ(体調4.5〜5.0㎜)が、6月上旬頃から羽化して健全なナラ類に飛来し、集合フェロモンによって集中的に穿入し、ナラ菌の蔓延により導管が目詰まりして、通水障害を起しナラ枯れが発生する。

被害対策は、立木くん蒸・伐採くん蒸といった方法で駆除を実施している。薪として焼却する方法もあるが、羽化する迄に焼却すること。

④国有林の森林計画に関する「地域懇談会開催のお知らせ」

奈良森林管理事務所から開催参加の募集。(資料3.4参照)尚、各資料は事務局で保管。資料を見たい場合は事務局に連絡。

名刺交換者

- ・奈良県文化資源活用課・山本修平係長
- ・十津川村教育委員会事務局教育課・杉本正秀課長補佐。
- ・奈良森林管理事務所片山宏文所長、高山伸昌森林技術指導官
- ・中外日報社・武田智彦編集部記者(創立40周年記念誌送付)

行動タイム

新宮 7:20→「大塔・道の駅」→9:55 電源開発株 11:05→11:45
金峰山寺 P→12:20 昼食 12:50→13:00 聚法殿(協議会)16:20→
18:45 新宮。(記 川島)